

中学校進学前に小学校の児童をつなげる！

学校や教育委員会の願い

新見南小学校は児童数約200名で中学校と隣接している。一方、井倉小学校と草間台小学校は学年1学級もしくは複式学級の小規模校であり、中学進学時の人間関係づくりに課題が見られる。小学校段階での連携を行い、中学校のスタートをスムーズに行わせたい。

取組

合同での宿泊行事



5年生「宿泊体験活動」 6年生「修学旅行」

小小連携を深めるために、平成29年度より5年生での宿泊体験活動を3校で実施した。修学旅行については今後も3校合同で行っていくことによって、一体感を持たせるようにしていく。児童からは「友だちの輪が広がった。」という感想が多くあった。

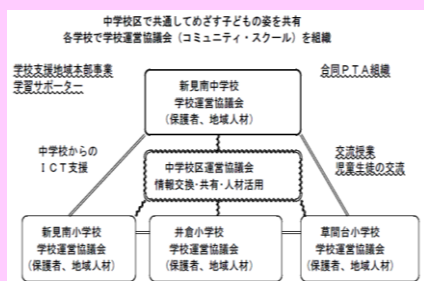
混合グループでの体験授業



模擬クラスで中学校の体験授業

3小学校の6年生が中学校を訪問し、国語、社会、家庭科の授業に児童が自分が選択して参加した。各校が混在したグループでの活動を意図的に行い、中学校生活の雰囲気を感じられるようにした。児童からは「新しい友だちと交流できた。」という感想があった。

コミュニティ・スクール合同研修会



地域住民・保護者がつながる

中学校区の学校の教職員と地域住民が合同で学校づくりについて研修を行い、共通してめざす子どもの姿を共有した。9年間を見通したつながりのある教育を、一緒に実現していくという機運を高めることができた。

ポイント

- 中学校区全体で子ども像を共有するために小中一貫グランドデザインを設定
- 中学校に配置された小中連携担当者が中心となって連絡・調整
- 3小学校では、交流学习の年間計画だけでなく、ICT活用教育や英語教育も共通の年間計画を作成し・実施

取組の成果

合同での活動を意図的に実施することで、3小学校同学年同士の相互理解が深まった。これは、スムーズな小中接続の一助になると考えている。また、コミュニティ・スクールを導入し、学校運営協議会の中で研修や意見交換を行った。この研修は、各学校を支える地域住民・保護者がつながる機会となり、9年間を見通したつながりのある教育を共に実現していこうとする機運を高めることになった。

小規模校の生徒が多様な考えにふれる機会をつくる！

学校や教育委員会の願い

生徒数は真鍋中学校2名、北木中学校6名の極小規模校であり、他者からの刺激を受けにくい。特に真鍋中学校は中1生徒のみでモデルとなる上級生がいない。地域学習を合同で行い、自分の考えを広げたり、人間関係を構築したりする楽しさを味わわせたい。

取組

協同学習



「笠岡諸島の歴史」授業

ナウマン象の化石等の興味深い資料をもとに、自分たちの暮らす地域の歴史や文化を学んだ。生徒からは「たくさんの友達と話し合ってた楽しかった。」「別の島のことも調べてみたい。」という感想があった。

体験学習



家庭科の授業で役割分担をしながら調理、会食

地元で獲れた食材をさばき、グループ内で役割分担をしながら調理を進めた。生徒からは「上級生が優しく教えてくれた。」「進んで話をする事ができるようになった。」という感想があった。

異学年学習



笠岡市の史跡等を見学し、まとめる

史跡や農業施設を見学し、それぞれの学校における文化祭での発表に向け、協力して資料を作成した。生徒からは「上級生の助言で上手なまとめ方を学ぶことができた。」「友情が深まった。」という感想があった。

ポイント

- 小学校の時はスカイプ等を使っでの交流、中学校では実際の交流行事を実施
- 交流にかかわる年間計画は前年度末に2つの中学校が合同で作成
- 地域学習は市教育委員会生涯学習課の学芸員と連携

取組の成果

地域について、普段とは違う仲間と学習することで多様な考えを実感することができた。また、新たな視点で自分の故郷を見ることができ、愛着がより深まった。真鍋中学校の生徒にとっては、手本となる上級生の姿が良いモデルとなった。

児童生徒が関わりながら、地域での役割を持つ！

学校や教育委員会の願い

学力面、生徒指導面における課題を解決していくために、小中一貫教育を行っている。義務教育9年間を見通して系統的・継続的な指導を行う中で学力向上を図るとともに、小学生と中学生が協力して地域に貢献する中で豊かな人間関係や地域を大切に思う気持ちを育てていきたい。

取組

小学校の教員が中学校の授業で支援



小学校から中学校への乗り入れ授業

毎週、中学校1年生の数学の授業に小学校の教員が補助として出向いている。中学校の教員が説明を行い、小学校の先生は机間巡視をして丁寧に指導している。元担任がフォローを行うため、「難しくても授業についていける。」という感想が生徒からあった。

英語にふれる機会を小・中学校を通して設定



週4回程度のイングリッシュサロン

ALT（外国人指導助手）が、小学校では休み時間、中学校では放課後に、遊びや会話をする場所と時間を設けている。子どもからは、「英語が苦手だけど楽しい。」「外国の事を教えてもらえるのでおもしろい。」といった声があり、かかわりを楽しんでいた。

小・中学校合同での清掃活動



伊里学園の各地区の草取りやゴミ拾い

中学生が小学生に掃除の仕方を優しく教え、一緒に地域の清掃を行った。溝に入ってゴミを取る姿に、小学校高学年も中学生にあこがれを持っていた。地域の方から「きれいになって気持ちがいい。」と言われ、自分たちの取組に価値を見出していた。

ポイント

- 市教育委員会が小中一貫教育校として伊里学園を指定し、保護者・地域を対象とした小中一貫教育通信を発行
- 各校の教員、PTAの代表者、地域住民が集まり、協議会を開催して方向性を共通理解
- 小中合同で各教科の指導計画を作成し、9年間を見通した教育を推進

取組の成果

小・中学校教員が協働することで、児童生徒の実態に応じた指導やフォローができた。生徒も安心して学習に取り組むことができています。また、地域での清掃活動では、中学生と小学生が一緒に行くことで、地域の方に一層感謝されるとともに、上級生がモデルになることで、下級生に「自分も地域に何かをしたい。」という気持ちを育むことができた。